

1 一見するとBの方が薄く見えますが、実は両方とも同じ濃さです。この様に、私達の目は時としてだまされてしまう事があります。本当だと思い込んでいても、実は後で誤りであったと気が付いた事もあるでしょう。しかし中には、誤りであれば、取り返しのつかない事になってしまうものがあります。それは、人はこの世での旅路を終えた時、どこに向かうのかという事についてです。満天の星空を見上げた時、私達は畏敬の念に駆られます。生まれながらにして、この世界を何もない無から創られた、知恵と力に満ちた創造主なる神がおられる事を私達は知っているからです。また、人殺しや盗みは悪いというような、すべての人に当てはまる善悪の基準がある事を良心によって知っています。その事から、人を裁かれる正しい裁き主である神がおられるという事を私たちは無意識のうちに知っています(ローマ1―2章)。

3 神は、私達の行いだけでなく、言葉と心の考えをもはかり裁かれる完全にきよく正しい方です。今まで私達が心で思っていたネガティブな事を全て記録したビデオを家族や友達の前で上映されたらどう感じるでしょうか。「私はそれでも正しく、恥ずかしい事は全く有りません」と言えるでしょうか。逆に、一番の親友にも観せる事が出来ないのではないのでしょうか。事実、私達は数え切れない程の悪を行っているのです。神はどのような小さな事でさえも、その一つ一つを全て書物に記録されているのです。「人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定められています(ヘブル9:27)。その裁きの時、私たちは果たして無罪でしょうか？それとも有罪でしょうか？



6 聖書ではこのように神に対して罪を犯した私たちを、一方的な御好意によって救ってくださる天地の創造主なる神の愛について教えてくれています。それは、あわれみと恵みに満ちた神が、そのひとり子イエス・キリストをこの世に遣わされたという事です。神御自身である方が、へりくだって処女マリヤを通して一人の人として生まれたのです。「御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れ(ヘブル1:3)」である方です。このイエスは、罪を全く犯されず、私達を守ることの出来なかった神の戒めを完全に守り通し、私たちの受けるべき罪の報酬である神の怒りを、十字架の上で私たちの身代わりとなって受けて死んでくださったのです。「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」(1ヨハネ4:10)

8 「罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」(ローマ6:23)地獄の滅びでなく、永遠の命と天国が約束されているのです。私達は、「恵みのゆえに、信仰によって救われるのです。それは、自分自身からでたことでなく、神からの賜物です。行いによるものではありません」(エペソ2:8-9)。そして、キリストは死に打ち勝たれ三日目によみがえり、天に昇られました。誰でも、キリストを信じる者は、全く新しい者とされ、神の子どもとされ(1ヨハネ3:1)、今までとは違う新しい人生が始まります。救われた者の証拠は、完全ではなくても、何よりも主イエスを愛し、神のみことばを正しく読んで、聞き従うとあります(ヨハネ8章)。そして、天の御国に入り、いつの日かよみがえることが約束されています。

10 最後に、クリスチャンであると言われる方にお尋ねします。この世の旅路を終えた時、神に「何故あなたを天国に入れなければいけないのか」と仮に質問をされたとすれば、どの様に答えますか。「イエス様を信じているからです」と答えて、それ以外に何も言えないのであれば、イエスを信じる自分の信仰を信じているだけでも知れません。どのような劇的な体験をしたとしても、イエス・キリストの福音を理解する事なしには救われる事はありません。多くの人が終わりの日に「主よ。主よ。」とキリストに言うが、「わたしはあなた方を全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け」と言われ、滅びてしまうとマタイの福音書7章で警告があります。私達が神の国に入る事が出来るのは、イエスが、イエスを信じる私達の罪を背負い、十字架の上で神の怒りを身代わりとなって受けて死んで下さり、キリストの正しさで私達を覆って下さったからです。

11 これがイエス・キリストの福音です。私達の信仰はこの救いの恵み、神の賜物を受け取る手にすぎません。しかも、その信仰と悔い改めの心さえも、神からの賜物なのです。今も生きておられるこのイエス・キリストだけを信じているでしょうか。ビクトリア在住の方に無料で新約聖書を差し上げますので、興味のある方は是非、GospelForJapan@gmail.com までご連絡下さい。また、どのような質問、疑問など有ればご遠慮なくご連絡下さい。聖書の核となるテーマはイエス・キリストとその福音です。いつまでも変わらない神のみことばである聖書に忠実でなく、そのメッセージから外れているエホバの証人(ものみの塔)、モルモン教、統一教会、ローマカトリック、一部のカリスマ派、リベラル派のプロテスタント教会とは一切関係がありません。GfJV.ca



5 ですから世界を創造した無限、永遠、不変の神に対して罪を犯した私達の受けるべき罰はどれほど大きいのでしょうか。黙示録21:8には「不信仰の者、憎むべき者、人を殺す者、不品行の者、魔術を行う者、偶像を拜む者、すべて偽りを言う者どもの受ける分は、火と硫黄との燃える池の中にある」とあります。それは永遠の滅びの刑罰、すなわち、消えることのない火と、身体を食ううじの尽きることのない地獄(マルコ9:48)で、神の怒りをいつまでも受ける事だとあります。「神は愛だから許して下さい」と言われるでしょう。しかし、「悪者を正しいと認め、正しい者を悪いとする、この二つを、主は忌みきらう。」(箴言17:15)とある様に、きよく正しい神は、罪をただ赦し見過ごして、御自身を否む事は出来ません。必ず罪を裁かれます。私達はこの神の怒りを恐れながら待つより他はないのでしょうか。この答えが、